

令和2年度 八丈町立大賀郷中学校 学校経営方針

八丈町立大賀郷中学校

校長 松岡 健

1, 目指す学校像「生徒のための学校」

「生徒のための学校」とは、生徒が主体的に活動し、義務教育終了後のキャリアを見据え、そのための充実した教育課程が編成、遂行されている学校

- ①個に応じた教育を充実させ、主体的・対話的で深い学びのできる授業を展開する学校
- ②運動やスポーツに対し、「学ぶ」「する」「見る」「支える」ことを意識、実践できる学校
- ③コミュニケーションの機会を多く設け、プレゼンテーション能力の向上を図れる学校
- ④いじめの未然防止や早期発見、不登校への適切な対応ができる学校
- ⑤生徒とともに教職員が心身の健康づくりができる学校
- ⑥道徳教育を充実させ、自己肯定感や自己有用感が感じ取れる学校
- ⑦すべての教育活動にキャリアに関することを盛り込んでいる学校
- ⑧地域の小学生が進学することに期待をもてる学校
- ⑨卒業生が誇りをもてる学校
- ⑩保護者や地域と信頼関係を構築し、安心して任せられる学校

2, 育てたい生徒像「自分の力でたくましく現代社会を生き抜く生徒」

- ①知育「進んで学習する生徒」
 - ②徳育「礼儀を大切にする生徒」
 - ③体育「心身ともに健康な生徒」
- 教育目標より

3, 中期的目標

- ①主体的に学ぶ態度を育て、対話的な学習を取り入れることによって、深い学びと学力向上を目指す。
- ②社会生活の基本を身に付け、他人の気持ちになって考えることのできる「思いやり」と「優しさ」のある生徒の育成を目指す。
- ③基本的生活習慣を身につけ、生涯にわたって、運動や健康の関わりを考え、実践できる生徒の育成を目指す。

4, 今年度の取り組み目標と方策

項目	目標	方策
学習活動	わかる・できる喜びを実感させ、学習意欲を高めさせる。	生徒の実態にあわせた授業を展開し、対話的な活動を増やす。授業改善推進プランを活用し、教科横断的な授業を入れていく。
	主体的に学習する習慣を身につけさせる。	学習支援・生活支援事業との連携、家庭学習ノート等で学習の進捗状況を確認する機会を増やす。
生活指導	自己抑制力を高める。	全校生徒で集まる機会(行事、朝礼、特別授業等)を利用し、集団の中の一員を自覚させるための働きかけを行う。
	人権に配慮した指導を行う。	特別の教科道徳を要に、アンガーマネジメントの手法を取り入れる。
	生徒に寄り添った指導を行う。	年2回の教育相談週間で全教職員が関わる取り組みを推進していく。
進路指導	自分の個性、適性を理解させ、自己のキャリア形成に向けての態度と行動の育成を図る。	すべての教育活動で、キャリアに関する事を盛り込んで授業を進めていく。
学校運営	教職員個々の能力を結集し、学校組織としての強化を図る。	職層ごとの縦の連携と分掌、学年等の横の連携を図るための有用な会議を推進していく。
	地域の教育力、教育資源を生かし、教育活動をより充実させる。	八丈太鼓、郷土料理、八丈方言等、地域の人材を生かし、伝統文化の継承を行う。
特別活動	生徒の自主、自立の精神を育み、自己肯定感や自己有用感を高めさせる。	生徒の能動性を刺激し、成就感を味わうことのできる学校行事を遂行する。
	運動・スポーツに対するの関わり方を考え、実践させる。	大中SACや体育的行事を生徒主体で行っていく。
研究・研修	テーマに従って、教職員全員で取り組み、成果をあげる。	研究主任を要に、研究授業やグループ別協議を積極的に行う。
	OJTを積極的に行い、指導力向上に努める。	OJTシートの活用し、主任教諭が研修の講師となるような機会をつくる。
	サービス事故防止を目的とした研修を充実させる。	事例研究やワークシートを活用して、効果的な研修を実施する。
一貫教育	「自律し主体的に生きる子」を目指し、小学校との連携を図る。	出前授業やかんも交流、オリパラ講演会でも連携を模索する。
その他	東京2020を意識した活動を積極的に取り入れる。	オリンピックやパラリンピアン、その指導者を招聘する。また、2021年に延期された祭典後を考える機会を増やす。
	グローバル化に対応できる生徒を育てる。	英語の時間を要に、ALT、英語村を活用する。
	働き方改革を意識した勤務を行う。	年間11日の定時退勤日を設ける。
	特別支援学級(桃桜組)と通常級(梅組)の交流を積極的に行う。	行事交流、給食交流、実技教科の出前授業を積極的に実施する。